

3. 両生類・爬虫類

《概要》

鳥取県から記録されている両生類は7科20種、爬虫類は9科21種である（爬虫類の種数には本県でごくまれに記録されるウミガメ、ウミヘビ類を含む）。

県内に分布する小型サンショウウオはこれまで4種であったが、分類の見直しがなされ5種となった。県内のカスミサンショウウオは遺伝的、形態的に異なる2型が知られ、そのうち低地型とされていたものはサンインサンショウウオ、高地型とされていたものはヒバサンショウウオとしてカスミサンショウウオから分離、新種記載された（西日本に広域分布するとされた広義のカスミサンショウウオは、現在10種程に分けられている）。また、県内に分布するブチサンショウウオはチュウゴクブチサンショウウオとして新種記載された。サンインサンショウウオは鳥取県を中心とした山陰地方（島根県東部から兵庫県北西部）に分布し、ヒバサンショウウオは中国地方脊梁山地に分布するなど鳥取県を含む中国地方（中国山地）における小型サンショウウオの多様性は特筆すべきもので、種分化や地理的変異の観点からも注目される。

両生類は20種のうち約半数の11種が選定された。前回から1種増えたが、これはカスミサンショウウオが2種に分離されたことによるものである。内訳は、「絶滅危惧Ⅰ類」1種（サンインサンショウウオ。前回0種）、「絶滅危惧Ⅱ類」2種（オオサンショウウオ、ヒバサンショウウオ。前回2種）、「準絶滅危惧」6種（チュウゴクブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ニホンヒキガエル、ナガレタゴガエル、ニホンアカガエル。前回5種）、「その他の保護上重要な種」2種（アカハライモリ、カジカガエル。前は3種）である。前回、亜種の移行域の存在により「その他の保護上重要な種」で掲載したニホンヒキガエルはその移行域がむしろもっと東に位置するらしいことがわかってきたため（一方で個体数が少ないことは間違いがないため）、「準絶滅危惧」に移した。

爬虫類は「絶滅危惧Ⅰ類」1種（アカウミガメ）、「準絶滅危惧Ⅰ類」1種（ニホンイシガメ）、「情報不足」3種（スッポン、タカチホヘビ、シロマダラ）であり、前回と変更はなかった。

これらの選定種のうち、特に注目されるのはサンインサンショウウオである。本種は開発や耕作放棄による植生の遷移進行等で生息環境が悪化し、個体数が著しく減少していることから絶滅危惧Ⅰ類とした。鳥取市内の本種のタイプ産地は棚田から発電施設に変わり、生息確認がほぼできない状態にある。県東部を中心に県内における本種の生息状況確認と保全対策の検討が喫緊の課題である。

オオサンショウウオ（絶滅危惧Ⅱ類）は生息状況に顕著な変化はみられていないのでランク変更はなかったが、河川の上流域に孤立する小集団がいくつか確認され、生息地の分断が進行していると考えられる。本種は長命なため個体群の変化を捉えにくく、繁殖や幼若個体の確認とともに長期のモニタリングが必要である。近年、魚道設置による分断解消の試みや人工巣穴（地域住民が管理）での産卵事例もあり、保全対策は取られているが、工事箇所だけではなく生息河川全体（水源となる森林や陸域の環境を含む）で保全を検討していくことが望まれる。ニホンアカガエル（準絶滅危惧）は前回からランク変更はないが、県東部での減少が著しく、産卵場所の創出などの保全対策が望まれる。本種を始めとするカエルやイモリなどの両生類は水田環境に依存している種が多く、放棄水田の増加や土地利用の変化（農地から住宅地や発電施設など）による今後の生息の動向には注意が必要である。

爬虫類では、ニホンイシガメの主要な生息域である日野川水系においてクサガメとの交雑種が近年相次いで確認されている。交雑種の増加はニホンイシガメ在来個体群に大きな影響を与える可能性があるが、本種は局所的に生息し、生息情報が十分でないことから前回からランクの変更はなく準絶滅危惧とした。県内における本種の生息調査を進めるとともに交雑種の動向に注意が必要である。最後に、アカウミガメは近年の産卵確認情報がないものの、現在も産卵のために少数が上陸している可能性がある。引き続き産卵確認調査と産卵の場となる砂浜環境の保全が早急に望まれる。

（岡田 純）

アカウミガメ カメ目ウミガメ科

Caretta caretta (Linnaeus, 1758)

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)

環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



雄 米子市皆生漁港 (混獲) 2006.8.8 / 撮影：川上 靖

■**選定理由**：世界的に減少傾向。記録数は少ないが、県内の砂浜海岸でも産卵・孵化が確認されている。

■**特徴**：甲長 70–100 cm 程度。背甲は赤褐色や茶褐色。本州，四国，九州で産卵する唯一のウミガメ類。日本での産卵は 5–8 月。県内では 8–10 月に産卵または孵化が確認されている。沿岸域に生息し，成体は底層，幼体～亜成体は表層で生活。成体は貝類や甲殻類などを食べる。

■**分布** 県内：まれであるが，岩美町，北栄町などで産卵・孵化が確認されている。漂着および混獲はほぼ毎年記録されている。県外：世界の亜熱帯，温帯海域に生息。日本では本州中部以南の沿岸で産卵。

■**保護上の留意点**：漁業による混獲に注意するとともに，産卵のための砂浜の保全が必要である。

■**文献**：4, 5, 6.

執筆：川上 靖

ニホンイシガメ カメ目イシガメ科

Mauremys japonica (Temminck & Schlegel, 1838)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



雄 日南町日野川 2007.12.27 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：分布が局限され個体数が少ない。クサガメとの交雑個体が増加傾向にある。

■**特徴**：背甲長 14–20 cm 程度。背甲は黄褐色または茶褐色で後縁は鋸歯状。腹甲は黒色。河川の上流・中流域の流れの緩い水域や池沼に生息する。

■**分布** 県内：米子市，南部町，日南町，鳥取市。目撃情報は倉吉市や北栄町，若桜町からあるが詳細不明。県外：本州，四国，九州。日本固有種。

■**保護上の留意点**：交雑個体は繁殖能力があり，交雑個体の増加は本種個体群にとって脅威となり得る。堰堤やコンクリート護岸は産卵場所への移動を困難にするので河川内外の生態的連続性を保つことが必要。

■**特記事項**：ワシントン条約付属書 II 掲載種

■**文献**：8, 23, 36, 42, 47.

執筆：岡田 純

ニホンスッポン カメ目スッポン科

Pelodiscus sinensis (Wiegmann, 1835)

鳥取県：情報不足 (DD)

環境省：情報不足 (DD)



斐伊川 2008 / 撮影：中島 悟

■**選定理由**：国内に複数の遺伝的に異なる系統が存在し，在来系統と国外から持ち込まれた個体との競争，交雑が懸念されるものの実態が不明。

■**特徴**：背甲長 30 cm 程度まで成長する。背甲は緑褐色から灰褐色，甲板を持たず，柔らかな皮膚に覆われる。体は扁平で 4 肢には水掻きが発達し，水中生活に適応している。肉食傾向が強く，甲殻類，昆虫，魚類，両生類等を捕食するが，植物質も食べる。5–7 月に陸上の土中に産卵。

■**分布** 県内：千代川，天神川，日野川で確認記録がある。県内全域の河川の砂泥底の緩流部やワンド，ダム湖や池沼。県外：北海道を除く日本本土と周辺の離島。広義の本種は朝鮮半島，中国等の東アジアを中心に広く分布。

■**保護上の留意点**：まずは県内に生息する個体の系統確認が望まれる。河川，用水路やため池を改修する際には，水中と産卵場である陸上との生態的連続性の確保（緩傾斜護岸の採用等）が望まれる。

■**特記事項**：鳥取市内で国内 2 番目にスッポンの養殖が始まり（1896 年），種親は他県より持ち込まれたとの記録がある。

■**文献**：1, 7, 16, 40, 41.

執筆：剣持康弘

タカチホヘビ 有隣目(トカゲ目) タカチホヘビ科
Achalinus spinalis Peters, 1869

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：—



若桜町 2018.10.4 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：県内の記録は限られ希少と思われるが、生息状況は不明であり、「情報不足」とした。

■**特徴**：全長 30–60 cm 程度の小型のヘビ。鱗に虹色光沢があり、背中線の上に一本の黒い条線が尾の先まである。尾下板は二分せず単一。森林に生息し、石の下、ガレ場、落葉下などから発見される。夜行性で乾燥に弱い。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町、岩美町、若桜町、智頭町、日野町。これらは標高約 260–660 m の地点である。県外：本州、四国、九州、大隅諸島；中国東南部。

■**保護上の留意点**：佐治町の記録は林道の側溝に落下していたものである。他県でも切り通しの道路や林道で轢死あるいは側溝に落ちて乾燥、死亡した状態で見つかることが多い。生息地に側溝を敷設する際は落下の防止および脱出路を設けるなど配慮が必要。

■**文献**：24, 37, 45, 50.

執筆：岡田 純

シロマダラ 有隣目(トカゲ目) ナミヘビ科
Lycodon orientalis (Hilgendorf, 1880)

鳥取県：情報不足 (DD)
環境省：—



若桜町春米 2006.10.27 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：開発による生息地の破壊、餌となるトカゲ類の減少によって生息条件が悪化している。発見例が少なく、生息状況が不明。

■**特徴**：全長 30–70 cm 程度の小型のヘビ。背面は灰褐色で黒い横帯が入る。夜行性で、日中はやや乾燥した岩の隙間や倒木下などに潜む。トカゲや小さなヘビなどの爬虫類を食べる。海岸付近から山地まで広い範囲で見られ、夜間路上で発見されることが多い。

■**分布** 県内：鳥取市、八頭町、若桜町、倉吉市、南部町、日南町で確認されている。県外：北海道、本州、四国、九州、伊豆大島等（日本固有種）。

■**保護上の留意点**：爬虫類を専食するため、それらも生息できる環境を保全する。

■**文献**：9, 12, 25, 39.

執筆：岡田 純

サンインサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科
Hynobius setoi Matsui, Tanabe & Misawa, 2019

鳥取県：絶滅危惧I類 (CR+EN)
環境省：絶滅危惧IB類 (EN)



雌 鳥取県内 2013.12.30 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：局所的に分布し、個体数が著しく減少している。開発や水田放棄等により生息地が減少、消失している。

■**特徴**：全長 9–13 cm 程度。背面は黄褐色～黒褐色で尾の上下に黄色条線がある。おもに丘陵地・低山地の森林に生息し、湧水のある溝、湿地の泥中や落葉下等に産卵する。繁殖期は 1–3 月。これまでカスミサンショウウオ（低地型）とされていたが、分類が見直され 2019 年に新種記載された。

■**分布** 県内：沿岸部の低地（約 20–400m）。県外：兵庫県北西部、島根県東部。日本固有種。

■**保護上の留意点**：耕作放棄による遷移進行、森林伐採、開発による湧水の枯渇や生息地の乾燥化は、産卵場所の減少、生息環境の悪化を招き生息地の消失に繋がっている。マニアによる乱獲は脅威。

■**特記事項**：特定第二種国内希少野生動植物種（販売、頒布目的の採集を禁止）。

■**文献**：11, 15, 17, 26.

執筆：岡田 純

ヒバサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科

Hynobius utsunomiyaorum Matsui & Okawa, 2019

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



雄 日野郡 2020.4.18 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：局所的に分布し、個体数が減少している。林道の敷設や皆伐等により生息環境が悪化している。

■**特徴**：全長 7-11 cm 程度。背面は黒褐色で茶褐色の不規則な斑紋がある。体側や尾の白色小点が地衣状を呈する個体もあるが、体色は個体差が大きい。尾は棒状で黄色条線は不明瞭。後肢の第5趾は欠くまたはあっても痕跡的。森林に生息し、湧水のある溝、湿地の泥中や源流部の石の下面等に産卵する。繁殖期は4-5月。

■**分布** 県内：日南町、琴浦町、大山町、江府町の標高約 500 m 以上の山地。県外：兵庫県、岡山県、広島県、島根県の中国山地脊梁部周辺。日本固有種。

■**保護上の留意点**：林道整備や皆伐等による湧水の減少や産卵場所の消失。マニアによる乱獲は脅威。

■**特記事項**：特定第二種国内希少野生動植物種。

■**文献**：15, 27, 48.

執筆：岡田 純

チュウゴクブチサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科

Hynobius sematonotos Tominaga, Matsui & Nishikawa, 2019

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：絶滅危惧II類 (VU)



雄 日野郡 2020.5.22 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：生息地が限定され、局地的に分布する。いずれの生息地も個体数が少なく、林道の敷設や皆伐等により生息環境が悪化している。

■**特徴**：全長 8-15 cm 程度。背面は茄子紺の地に銀灰色の地衣状斑紋がある。幼生の指先に黒爪がない。産卵期は4月下旬-5月中旬で、溪流の流域で産卵する。幼生は夏季に溪流の淀みに生息し、多くは9月上旬までに変態する。これまでブチサンショウウオとされていたが、分類が見直され2019年に新種記載された。

■**分布** 県内：標高約 300 m 以上の山地森林。鳥取市（旧市内、鹿野町、用瀬町）、智頭町、若桜町、日南町。県外：中国地方。日本固有種。

■**保護上の留意点**：県内産の小型サンショウウオの中では分布が局所的で個体数が少なく生息地の保全が強く望まれる。山地森林に生息するため開発による影響は比較的少ないと思われるが、水源域の森林伐採や生息地周辺での林道の敷設による生息環境の悪化が懸念される。マニアによる乱獲は脅威。

■**特記事項**：特定第二種国内希少野生動植物種。

■**文献**：27, 44.

執筆：岡田 純

ヒダサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科

Hynobius kimurae Dunn, 1923

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：準絶滅危惧 (NT)



雌 日野郡 2013.12.6 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：局所的に分布し、個体数が少ない。林道の敷設や皆伐等により生息環境が悪化している。

■**特徴**：山地流水性の小型サンショウウオ。全長 8-16 cm 程度。背面に黄橙色の不規則な斑紋がある。標高 100 m 程度の低山地から 1000 m を超える中国山地脊梁部にかけての森林に生息する。産卵期は2-4月で、源流の石の下等に産卵する。幼生の指先には黒爪があり、低地を除き越冬幼生が多くみられる。

■**分布** 県内：県内全域の山地。県外：北陸・中部・近畿・中国の各地方。日本固有種。近年分類が見直され、関東地方から愛知県東部にかけて分布する集団は2018年にヒガシヒダサンショウウオとして新種記載された。

■**保護上の留意点**：林道敷設や皆伐による溪流への土砂の流入、水量の減少、生息地の乾燥化等により生息環境が悪化しており、溪流と水源となる森林をセットで保全することが重要。ニホンジカによる河岸植生の食害により表土が溪流に流入し、生息環境が悪化した例がある。

■**文献**：10, 28.

執筆：岡田 純

ハコネサンショウウオ サンショウウオ目サンショウウオ科
Onychodactylus japonicus (Houttuyn, 1782)

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)
 環境省：—



成体 八頭郡 2013.10.19 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：局所的に分布し、個体数が少ない。皆伐や林道の敷設等により生息環境が悪化している。

■**特徴**：山地溪流に産卵する流水性の小型サンショウウオ。全長 10–19 cm 程度。背面に朱色の縦縞または不規則な斑紋がある。幼生および繁殖期の成体に黒爪が発達し、流水に適応している。5–6 月頃に冷たい伏流水中で産卵する。幼生期間が 3 年あまりと長く、溪流の石の下などでサイズの異なる幼生がみられる。変態後も肺が発達せず、皮膚呼吸をおこなう。

■**分布** 県内：標高約 300 m から 1000 m を超える山地森林。県外：福島県から山口県にかけての本州。日本固有種。

■**保護上の留意点**：本種は幼生期間が長く水量豊富な溪流に幼生が多く生息している。皆伐による水量の減少、生息地の乾燥化は脅威であり、溪流と森林をセットで保全することが重要。ニホンジカによる河岸植生の食害により表土が溪流に流入し、生息環境が悪化した例がある。

■**文献**：18, 29.

執筆者：岡田 純

オオサンショウウオ サンショウウオ目オオサンショウウオ科
Andrias japonicus (Temminck, 1836)

鳥取県：絶滅危惧II類 (VU)
 環境省：絶滅危惧II類 (VU)



成体 日南町日野川 2020.9.1 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：ダムや堰堤により生息地が分断されている。河川改修や林道敷設による土砂の流入等で、産卵巣穴の消失や環境悪化が進行している。

■**特徴**：全長 50–100 cm で最大 150 cm。河川の中・上流域に生息し、小河川や集落内の用水路等でもみられる。夜行性で日中は河岸横穴や石下等に潜み、サワガニ、水生昆虫、魚類等を捕食。8 月下旬～9 月下旬に繁殖。雄は産卵巣穴を占有し、卵やふ化幼生を保護する。

■**分布** 県内：天神川水系、日野川水系の中・上流域、大山山麓の小河川に生息。千代川水系は一部の上流河川のみ。県外：岐阜県以西の本州、四国、九州（大分県）。日本固有種。

■**保護上の留意点**：上流域の河川生態系の最上位種で、生態系全体の保全が重要。堰堤には移動経路（魚道等）を確保し、再生産の場（産卵巣穴や幼生の生息環境）を保全すること。生息河川近接地での伐採や林道敷設ではバッファゾーンを設け、土砂等の河川への流入を防止。近年チュウゴクオオサンショウウオとの交雑種が近畿・東海・中国地方の一部で確認されており、要注意。

■**特記事項**：ワシントン条約付属書 I 掲載種、国際希少野生動物植物種。

■**文献**：13, 20, 22, 30.

執筆者：岡田 純

アカハライモリ (イモリ) サンショウウオ目イモリ科
Cynops pyrrhogaster (Boie, 1826)

鳥取県：その他の重要種 (OT)
 環境省：準絶滅危惧 (NT)



雌の広島型 (左) と篠山型 (右) 八頭郡 2011.4.13 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：鳥取県内で本種の 2 つの系統（広島型を含む西日本系統と篠山型を含む中部日本系統）の間の移行が起こる。水田放棄や圃場整備等により生息環境が悪化し、個体数が減少している。

■**特徴**：全長雄 8–10 cm、雌 10–13 cm。背面は黒褐色、腹面は赤またはオレンジ色で不規則な黒斑がある。腹面の斑紋の違いによりいくつかの地方型が知られるが、そのうち県内には篠山型と広島型が分布し、両者の中間的な個体もみられる。

■**分布** 県内：県内全域の水田、用水路、河川、湿地。県外：本州、四国、九州と周辺の離島。日本固有種。

■**保護上の留意点**：圃場整備による乾田化、水路のコンクリート化等により個体数が減少している。本種は産卵場所となる水場と周辺の陸域を行き来するので両者の生態的連続性を保つことが必要である。本県の産地は生物地理学的に貴重であり、生息地の保全が強く望まれる。業者による大量捕獲、販売は脅威。

■**文献**：2, 19, 31, 43.

執筆者：岡田 純

ニホンヒキガエル カエル目ヒキガエル科

Bufo japonicus japonicus Temminck & Schlegel, 1838

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄 大山町 2020.3.17 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：局所的に分布し、ほとんどの生息地で個体数が少なく希少。産卵場所が湧水や積雪の減少等で縮小、消失している。

■**特徴**：体長7-15 cm 内外。背面は茶褐色でイボ状の隆起がある。低地から山地にかけての森林に生息し、春にひも状の卵を止水（ため池や水溜り等）に産卵する。鳥取県は本亜種とアズマヒキガエル *B. j. formosus* の移行地域に含まれると考えられていたが、その境界は近畿地方にあるとみられる。

■**分布** 県内：県内一円。 県外：本州、四国、九州と周辺の離島。日本固有種。

■**保護上の留意点**：産卵場所である止水域と生息場所となる森林をセットで保全することが重要。アズマヒキガエルと思われる個体が県東部から確認されたことがあり、再調査が必要。

■**文献**：14, 32.

執筆：岡田 純

ナガレタゴガエル カエル目アカガエル科

Rana sakuraii Matsui & Matsui, 1990

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄 若桜町 2009.12.29 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：県中部、東部の山地に分布が局限され、個体数が少ない。

■**特徴**：山地森林に生息する溪流性のカエル。体長4-6 cm。タゴガエルに似るが、本種は後肢の水かきが発達し趾端近くまでであるので区別できる。県内での詳しい生態は不明だが、11月下旬以降溪流に集まり越冬する。3月頃溪流で産卵すると思われる。繁殖期に雄の体側の皮膚が著しく伸長し弛む。

■**分布** 県内：鳥取市佐治町、若桜町、智頭町、三朝町。 県外：関東、北陸、中部、近畿、中国地方の山地。日本固有種。

■**保護上の留意点**：森林伐採や林道敷設による生息地の乾燥化、水量の減少は、個体群に大きな影響があるので注意が必要。

■**文献**：21, 33, 38, 49, 51.

執筆：岡田 純

ニホンアカガエル カエル目アカガエル科

Rana japonica Gunther, 1858

鳥取県：準絶滅危惧 (NT)

環境省：—



雄 日南町 2021.10.26 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：局所的に分布し、個体数が少ない。乾田化により産卵場所が消失し、とくに県東部での減少が著しい。

■**特徴**：体長雄5.5 cm、雌6.5 cm 程度。背面は赤褐色で、褐色が強い個体や、明るいオレンジ色の個体もみられる。眼の後方から後肢の付け根にかけてほぼ直線の隆条がある。繁殖期の雌の腹面は鮮やかなオレンジ色。1-3月、高地で5月にかけて日当たりのよい湿地、水田、用水路等にゼリー状の卵塊を産む。幼生は背面中央に一对の黒点がある。

■**分布** 県内：岩美町、鳥取市、米子市、南部町、江府町、日南町。 県外：本州、四国、九州および周辺の島々（日本固有種）。

■**保護上の留意点**：本種のおもな減少要因は圃場整備による乾田化で産卵場所が失われ、個体数が減少している。休耕田に水を張って産卵場所を確保する等の保全対策が望まれる。

■**文献**：35, 46.

執筆：岡田 純

カジカガエル カエル目アオガエル科
Buergeria buergeri (Temminck & Schlegel, 1838)

鳥取県：その他の重要種 (OT)
 環境省：—



雌 日南町日野川 2006.7.4 / 撮影：岡田 純

■**選定理由**：鳥取県東部は幼生の体型、歯列によって区別される東北型、西南型の移行地域に当たる。河川改修により産卵場所や幼生の生息環境等が消失している河川がある。

■**特徴**：体長雄 4 cm, 雌 7 cm 程度。背面は灰～茶褐色で不規則な斑紋がある。5-7 月頃雄は河川の石の上でさかんに鳴いて雌を待つ。雌雄は抱接し河床の石の下等に産卵する。幼生は河岸付近の礫下等でみられ、8-9 月頃には変態し、上陸する。

■**分布** 県内：県内全域の河川の中上流域。県外：本州、四国、九州。日本固有種。

■**保護上の留意点**：産卵場所である河川と繁殖期以外の生息場所の河畔林との連続性を保つことが必要。2 地理型の移行域の保全はとくに重要。生息地の復元等を行う場合、他の河川から個体の導入は行わないこと。

■**文献**：3, 35.

執筆：岡田 純

■**参考文献 両生類・爬虫類**

- 後藤康人(2018)日本で2番目に古いスッポン養殖の話。亀楽, 16: 10-14.
- Hayashi, T. & Matsui, M. (1988) Biochemical differentiation in Japanese newts, genus *Cynops* (Salamandridae). Zool. Sci., 5: 1121-1136.
- 細井光輝(2002)カジカガエル. p. 86. In: レッドデータブックとっとり(動物).
- 川上 靖・一澤 圭(2010)鳥取県沿岸に漂着した大型海洋動物(2008年~2009年)とウミガメ類の産卵記録. 鳥取県立博物館研究報告, 47: 83-86.
- 川上 靖・平尾和幸・清末幸久(2004)鳥取県沿岸における漂着動物の記録(2002年4月~2003年12月). 鳥取県立博物館研究報告, 41: 1-8.
- 川上 靖・清末幸久・一澤 圭・平尾和幸・安藤重敏(2006)鳥取県沿岸における漂着動物(2004年1月~2005年12月)とアカウミガメに付着していた暖海性紅藻類トゲキヌイトグサ *Antithamnion tanakae*. 鳥取県立博物館研究報告, 43: 1-5.
- (株)建設環境研究所(2015)平成26年度日野川水辺現地調査(鳥類他)業務報告書. pp. 4-162.
- 桐原佳介(2010)鳥取県西伯郡南部町におけるニホンイシガメとクサガメの種間雑種の記録. 山陰自然史研究, 5: 67-68.
- 桐原佳介・桐原真希(2006)鳥取県西伯郡南部町におけるシロマダラの初記録. 山陰自然史研究, 2: 32-33.
- 桐原真希(2007)鳥取県南部町の低標高地で確認されたヒダサンショウウオ. 山陰自然史研究, 3: 18.
- 桐原真希(2010)鳥取県西伯郡南部町におけるカスミサンショウウオの記録. 山陰自然史研究, 5: 71-74.
- 國本洗紀(2003)打吹山周辺におけるシロマダラの記録. 山陰自然史研究, 1: 22.
- 松田裕太・岡田 純(2021)日南町日野川におけるオオサンショウウオの長距離移動と斑紋変化の1例. 山陰自然史研究, 17: 24-27.
- 松井正文・前田憲男(2018)日本産カエル大鑑. 文一総合出版. 271 pp.
- Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y. & Tominaga, A. (2019). Systematics of the widely distributed Japanese clouded salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia: Caudata: Hynobiidae), and its closest relatives. Current Herpetology, 38: 32-90.
- 中島 悟(2012)ニホンスッポン. p. 65. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 野田吉夫(1993)カスミサンショウウオ. pp. 76-77. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物).
- 野田吉夫(1993)ハコネサンショウウオ. pp. 82-83. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物).
- 野田吉夫・鶴崎展巨(1993)イモリ. pp. 88-91. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物).
- 野村幸弘(2001)鳥取県におけるオオサンショウウオの保護・確認情報とその考察. 鳥取生物, 33/34: 15-18.
- 岡田 純(2002)鳥取県佐治村三国山のナガレタゴガエル新産地. 鳥取生物, 35: 1-2.
- 岡田 純(2006)鳥取県中・西部におけるオオサンショウウオの生息状況. 山陰自然史研究, 2: 21-28.
- 岡田 純(2012)イシガメ. p. 65. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 岡田 純(2012)タカチホヘビ. p. 66. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 岡田 純(2012)シロマダラ. p. 66. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 岡田 純(2012)カスミサンショウウオ. p. 66. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 岡田 純(2012)ブチサンショウウオ. p. 67. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 岡田 純(2012)ヒダサンショウウオ. p. 67. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 岡田 純(2012)ハコネサンショウウオ. p. 67. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
- 岡田 純(2012)オオサンショウウオ. p. 68. In: レッドデータブックとっとり改訂版.

31. 岡田 純 (2012) アカハライモリ (イモリ). p. 68. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
32. 岡田 純 (2012) ニホンヒキガエル. p. 68. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
33. 岡田 純 (2012) ナガレタゴガエル. p. 69. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
34. 岡田 純 (2012) ニホンアカガエル. p. 69. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
35. 岡田 純 (2012) カジカガエル. p. 69. In: レッドデータブックとっとり改訂版.
36. 岡田 純・岡田珠美 (2010) 鳥取県日南町日野川からのニホンイシガメの記録. 山陰自然史研究, 5: 64–65.
37. 岡田 純・鶴崎展巨 (2002) 鳥取県におけるタカチホヘビの新記録. 鳥取生物, 35: 3–5.
38. 岡田 純・亀山 剛・池田誠慈 (2001) 鳥取県で発見されたナガレタゴガエル. 両生類誌, 6: 18–20.
39. 岡田 純・岡田珠美・小林佳崇 (2010) 鳥取県におけるシロマダラの記録. 山陰自然史研究, 5: 70–71.
40. 太田英利 (2014) ニホンスッポン. p. 83. In: レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—3 爬虫類・両生類. ぎょうせい (東京), 153pp.
41. 鈴木 大 (2021) ニホンスッポン. pp. 99–100. In: 日本爬虫両棲類学会 (編) 松井正文・森 哲 (編) 新日本両生爬虫類図鑑. サンライズ出版 (滋賀県彦根市), 232 pp.
42. Suzuki, D. & Hikida, T. (2011). Mitochondrial phylogeography of the Japanese pond turtle, *Mauremys japonica* (Testudines, Geoemydidae). *Journal of Zoological Systematics and Evolutionary Research*, 49: 141–147.
43. Tominaga, A., Matsui, M., Yoshikawa, N., Eto, K., Nishikawa, K. (2018). Genomic displacement and shift of the hybrid zone in the Japanese fire-bellied newt. *Journal of Heredity*, 109 : 232–242.
44. Tominaga, A., Matsui, M., & Nishikawa, K. (2019). Two new species of lotic breeding salamanders (Amphibia, Caudata, Hynobiidae) from western Japan. *Zootaxa*, 4550, 525–544.
45. 東常哲也・宇都宮妙子 (1999) 鳥取県佐治村からのタカチホヘビ *Achalinus spinalis* Peters, 1869 について. 爬虫両生類学会報, 1999 (1): 5–7.
46. 鶴崎展巨・岡田 純 (2000) IV. 動物. pp. 59–92. In: 毛無山・宝仏山自然地域学術調査報告書. 鳥取県.
47. Ueno, S., Kamezaki, N., Mine, K., Suzuki, D., Hosoya, S., Kikuchi, K., Okamoto, K., Torii, M., Kadowaki, K., Okamoto, K. & Sano, M. (2021). Reproductive ability of hybrids between Japanese Pond Turtle (*Mauremys japonica*) and Reeves' Pond Turtle (*Mauremys reevesii*). *Zoological Science*, 39. <https://doi.org/10.2108/zs210047>.
48. 宇都宮妙子・岡田 純 (2002) カスミサンショウウオ. p. 80. In: レッドデータブックとっとり (動物).
49. 山田 勝 (2014) 鳥取県東伯郡三朝町でナガレタゴガエルを確認. しぜんしくらしき, 90: 7.
50. 山田 勝 (2014) 鳥取県八頭郡智頭町でタカチホヘビを確認. しぜんしくらしき, 90: 9.
51. 山田 勝 (2016) 鳥取県八頭郡智頭町でナガレタゴガエルを確認. しぜんしくらしき, 98: 13.